

平成26年度 英語教育実施状況調査（高等学校）の結果概要

調査の目的

文部科学省では、生徒の英語力、英語教員の英語力・指導力向上のため、「第2期教育振興基本計画」（平成25年6月閣議決定）において、生徒や教員の英語力の目標について、具体的な成果指標を示している。

さらに、「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告書（平成26年9月）においては、小学校中学年から外国語活動を開始し高学年では教科として外国語教育を実施すること、中・高等学校では授業を英語で行うことを基本とすること、学習到達目標（例：CAN-DO形式）を設定し指導・評価方法を改善すること、資格・検定試験の活用、ALTやICTの効果的な活用等、具体的な施策が示されている。

文部科学省では、具体的な施策の状況について調査し、次期学習指導要領の改訂や今後の施策の検討に資するとともに、各都道府県等における英語教育の充実や改善等に役立てるため、本調査を実施している。

調査の対象

調査対象

公立高等学校・中等教育学校（後期課程） 3,459校

学校等数	(平成26年12月1日現在)
ア．学校総数（高等学校及び中等教育学校後期課程）	3,459
イ．アのうち英語教育を主とする学科を有する学校数	146
学科数	
ウ．アにおける普通科等の数	5,808
エ．アにおける英語教育を主とする学科の数	147

「普通科等」とは、英語教育を主とする学科以外の学科を指す。

調査手法

都道府県・指定都市教育委員会を通して調査を実施。

調査基準日

特に指定がない場合、平成26年12月1日を基準日としている。

生徒の英語力に関すること

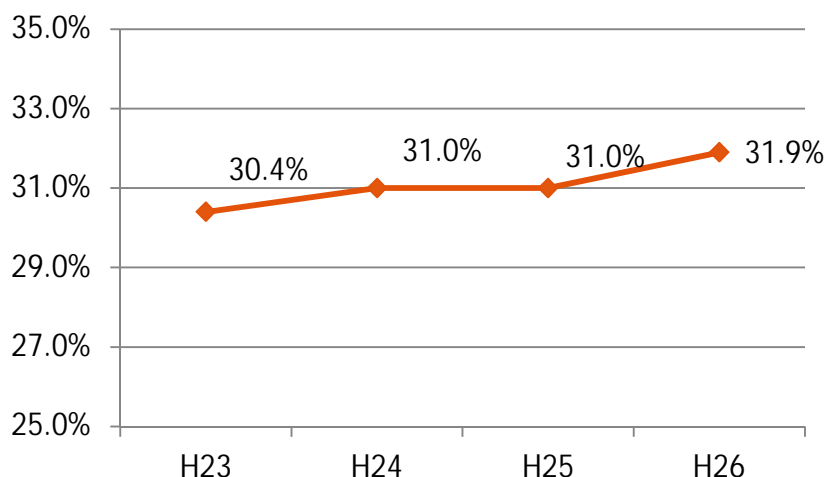
生徒の英語力の状況

高等学校第3学年に所属している生徒のうち、英検準2級以上を取得している生徒は11.1%で、平成25年度の11.0%から0.1ポイント上昇している。

英検準2級以上を取得してはいないが、相当の英語力を有すると思われる生徒は20.8%で、平成25年度の20.0%から0.8ポイント上昇している。

両者を合わせると31.9%となり、平成25年度の31.0%から0.9ポイント上昇している。

生徒の英語力の状況



◆ 英検準2級以上を取得している生徒及び相当の英語力を有すると思われる生徒の割合

H23、H24の数值は「『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』に係る状況調査」の結果に基づく。

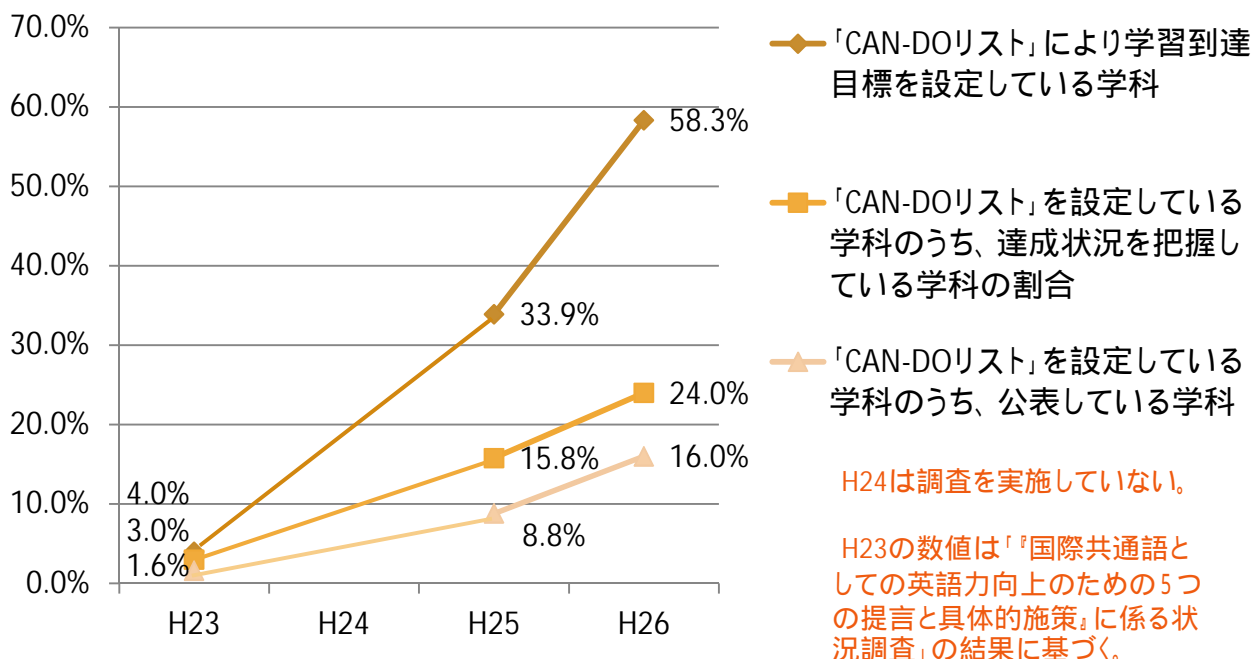
「第2期教育振興基本計画」では、高等学校卒業段階で英検準2級程度以上を達成した高校生の割合50%を目標とする。

「CAN-DOリスト」による学習到達目標の設定

「CAN-DOリスト」により学習到達目標を設定している学科は58.3%で、平成23年度の4.0%から54.3ポイント上昇、平成25年度の33.9%から24.4ポイント上昇している。

「CAN-DOリスト」により学習到達目標を設定している学科のうち、24.0%の学科では設定した学習到達目標の達成状況を把握しており、平成23年度の3.0%から21.0ポイント上昇、平成25年度の15.8%から8.2ポイント上昇している。

「CAN-DOリスト」による学習到達目標の設定・公表・達成状況の把握



H24は調査を実施していない。

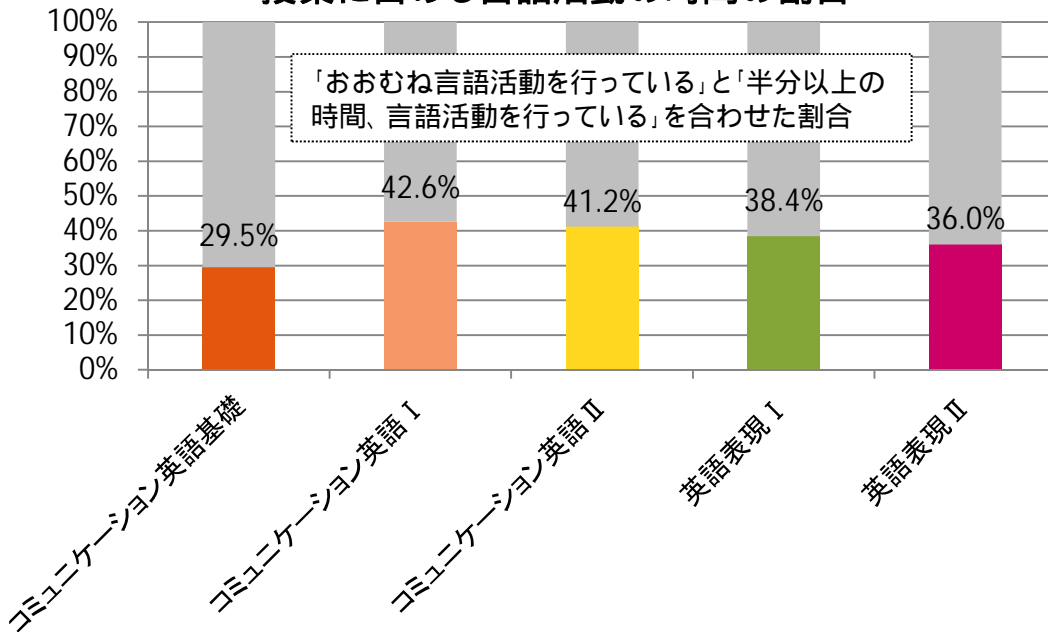
H23の数值は「『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』に係る状況調査」の結果に基づく。

英語を使用する機会の増加に関すること

生徒の英語を用いた言語活動の時間

普通科等における授業に占める生徒の英語を用いた言語活動の時間は、「おおむね言語活動を行っている」と「半分以上の時間、言語活動を行っている」を合わせた割合では、「コミュニケーション英語基礎」が29.5%、「コミュニケーション英語」が42.6%、「コミュニケーション英語」が41.2%、「英語表現」が38.4%、「英語表現」が36.0%となっている。

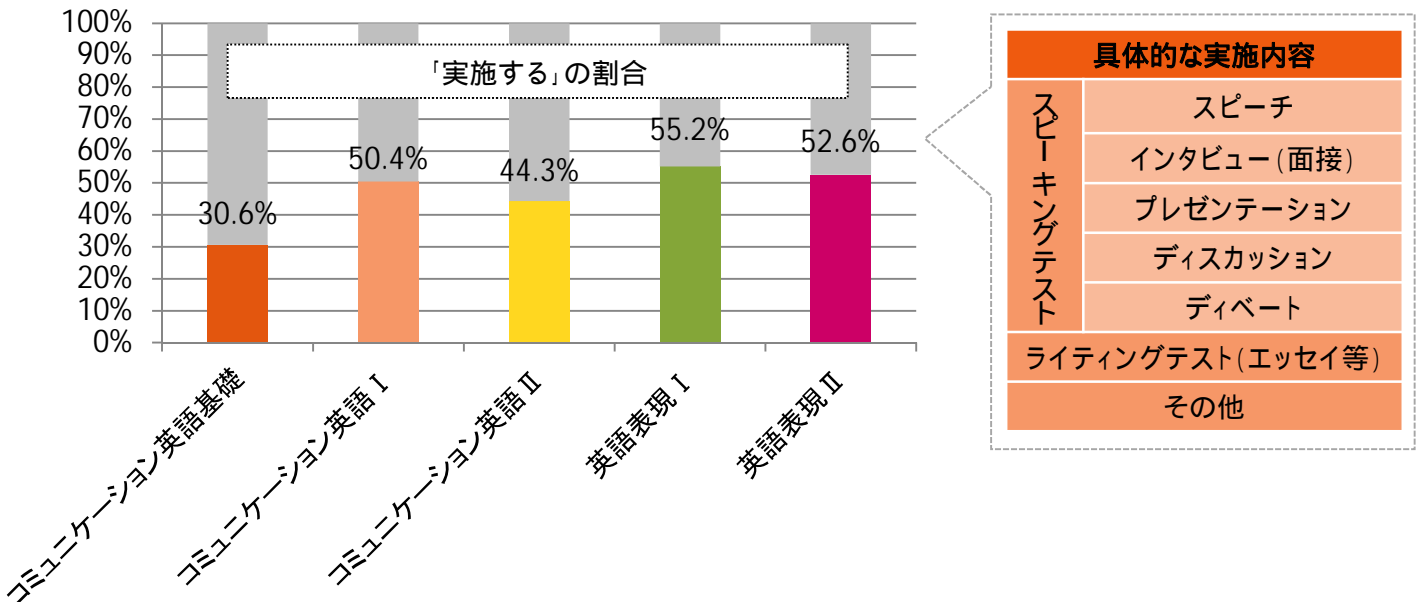
授業に占める言語活動の時間の割合



パフォーマンステストの状況

「話すこと」や「書くこと」の能力を評価するスピーキングテストやライティングテストを実施している普通科等の割合は、「コミュニケーション英語基礎」で30.6%、「コミュニケーション英語」で50.4%、「コミュニケーション英語」で44.3%、「英語表現」で55.2%、「英語表現」で52.6%となっている。

スピーキングテストやライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

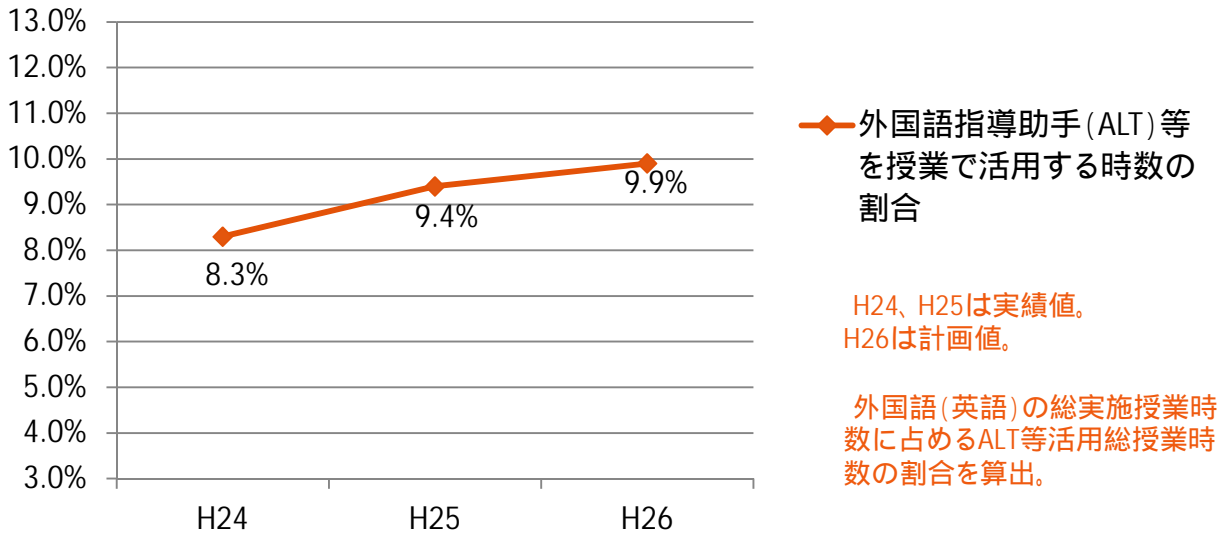


外国語指導助手（ALT）等の活用状況について

外国語指導助手（ALT）等を授業で活用する時数

普通科等における外国語の授業で、外国語指導助手（ALT）等を活用する時数の割合は、平成24年度は8.3%、平成25年度は9.4%、平成26年度では9.9%である。

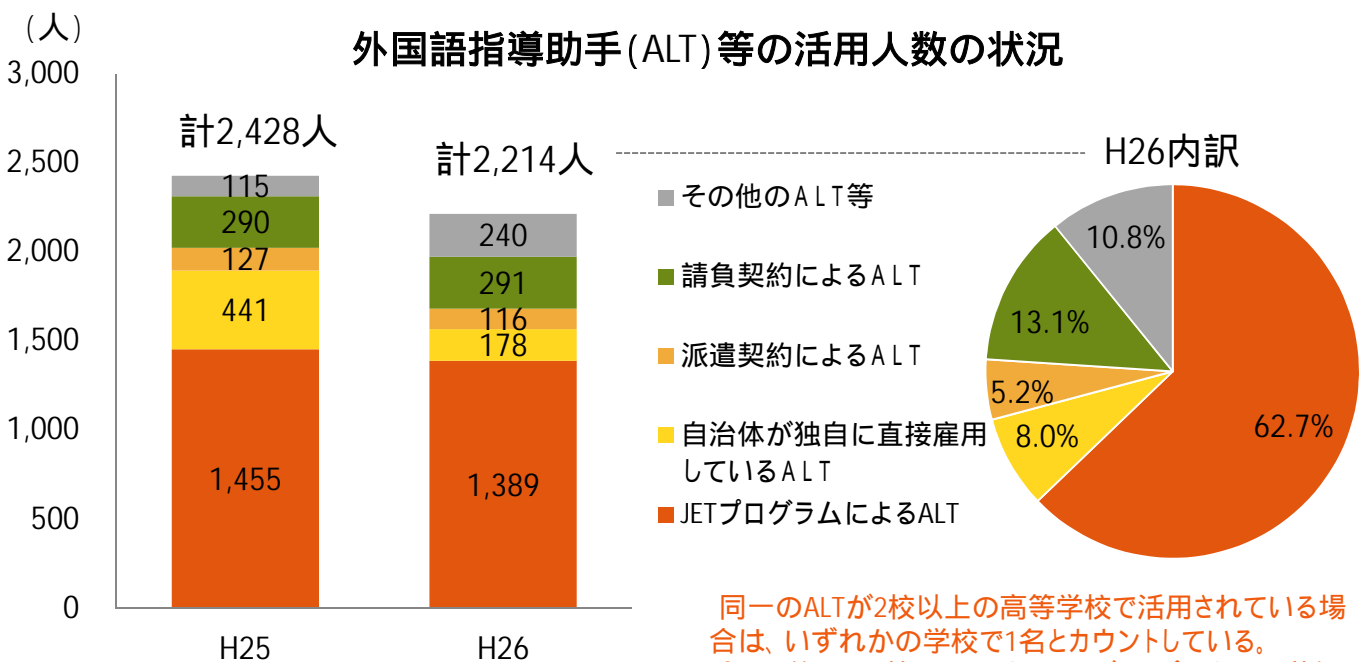
外国語指導助手（ALT）等を授業で活用する時数の割合



外国語指導助手（ALT）等の活用人数の状況

高等学校におけるALT等の総数は2,214人である。

ALT等の総数に占める種類の割合は、「JETプログラムによるALT」が62.7%、「JETプログラム以外で自治体が独自に直接雇用しているALT」が8.0%、「派遣契約によるALT」が5.2%、「請負契約によるALT」が13.1%となっている。



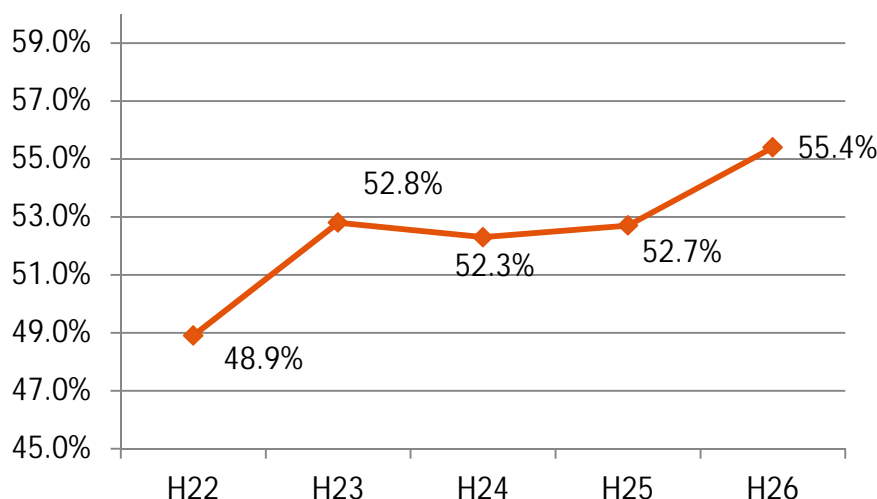
同一のALTが2校以上の高等学校で活用されている場合は、いずれかの学校で1名とカウントしている。
「その他のALT等」には、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材を含む。（平成26年度より日本人の地域人材を含む。）

英語担当教員の英語力・指導力等に関すること

英語担当教員の英語力の状況

高等学校の英語担当教員のうち、英検準1級以上又はTOEFL PBT 550点以上、TOEFL CBT 213点以上、TOEFL iBT 80点以上又はTOEIC 730点以上を取得している者の割合は55.4%で、平成25年度の52.7%から2.7ポイント上昇している。

高等学校教員の英語力の状況



◆英語担当教員のうち、英検準1級以上等を取得している教員の割合

英語能力に関する外部試験とは、英検、TOEFL、TOEIC等を指す。

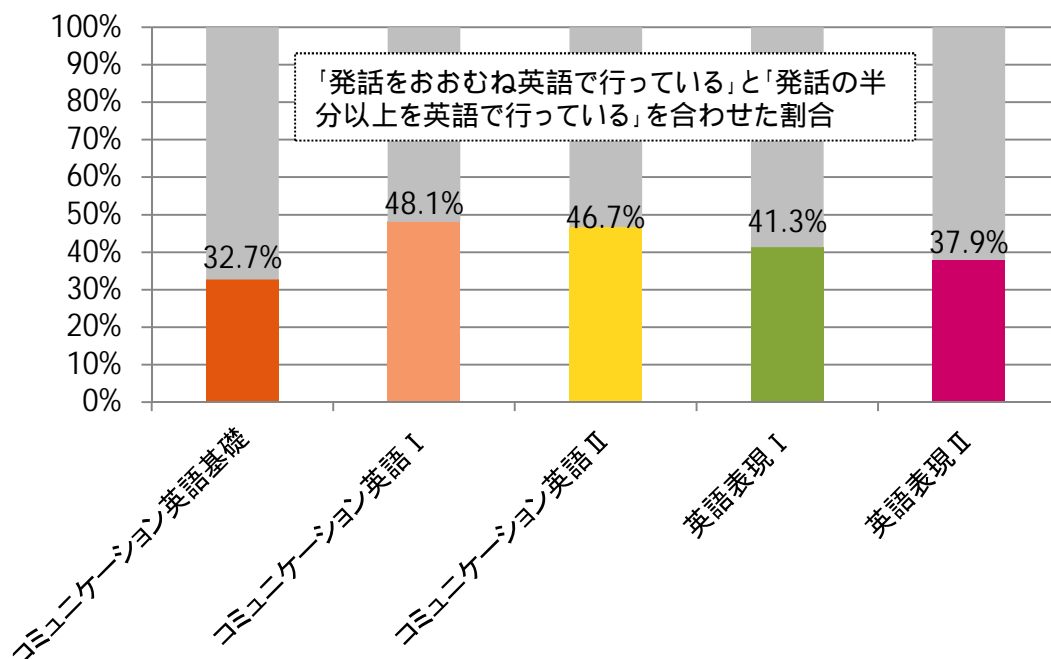
「第2期教育振興基本計画」では、英検準1級以上等を達成した高等学校の英語教員の割合75%を目標とする。

H22～H24の数値は「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」に係る状況調査の結果に基づく。

授業における英語担当教員の英語使用状況

普通科等における英語担当教員の英語使用状況は、「発話をおおむね英語で行っている」と「発話の半分以上を英語で行っている」を合わせた割合では、「コミュニケーション英語基礎」が32.7%、「コミュニケーション英語Ⅰ」が48.1%、「コミュニケーション英語Ⅱ」が46.7%、「英語表現Ⅰ」が41.3%、「英語表現Ⅱ」が37.9%となっている。

英語担当教員の英語使用状況

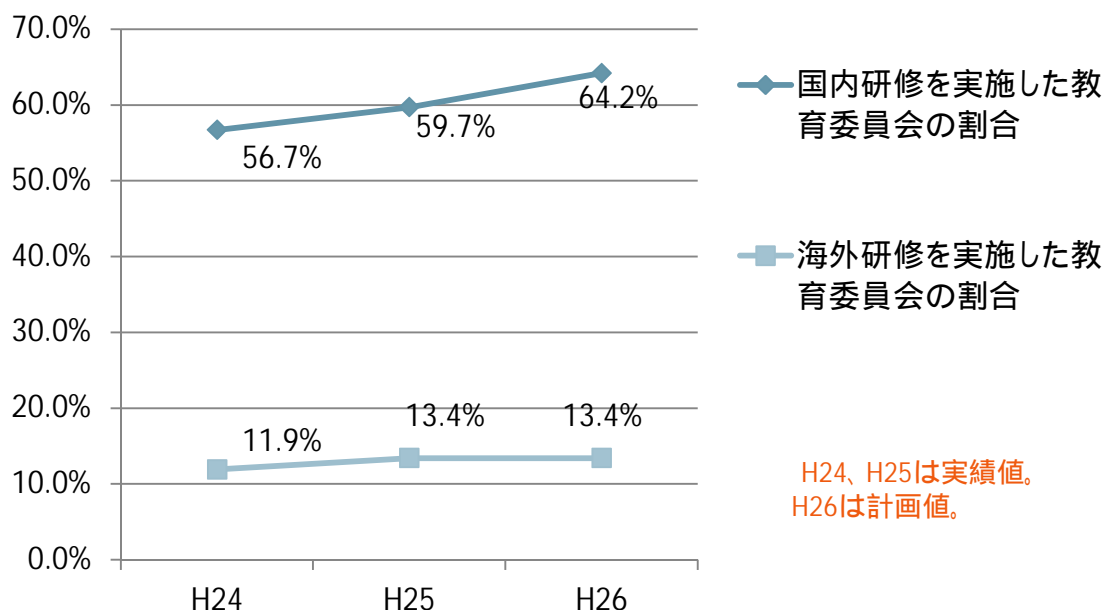


英語担当教員の英語力・指導力等に関すること

英語担当教員に対する研修の実施状況

平成25年度に都道府県・指定都市が主催した英語担当教員に対する研修について、国内研修を実施した教育委員会の割合は59.7%で、平成24年度の56.7%から2.0ポイント上昇している。海外研修を実施した教育委員会の割合は13.4%で、平成24年度の11.9%から1.5ポイント上昇している。

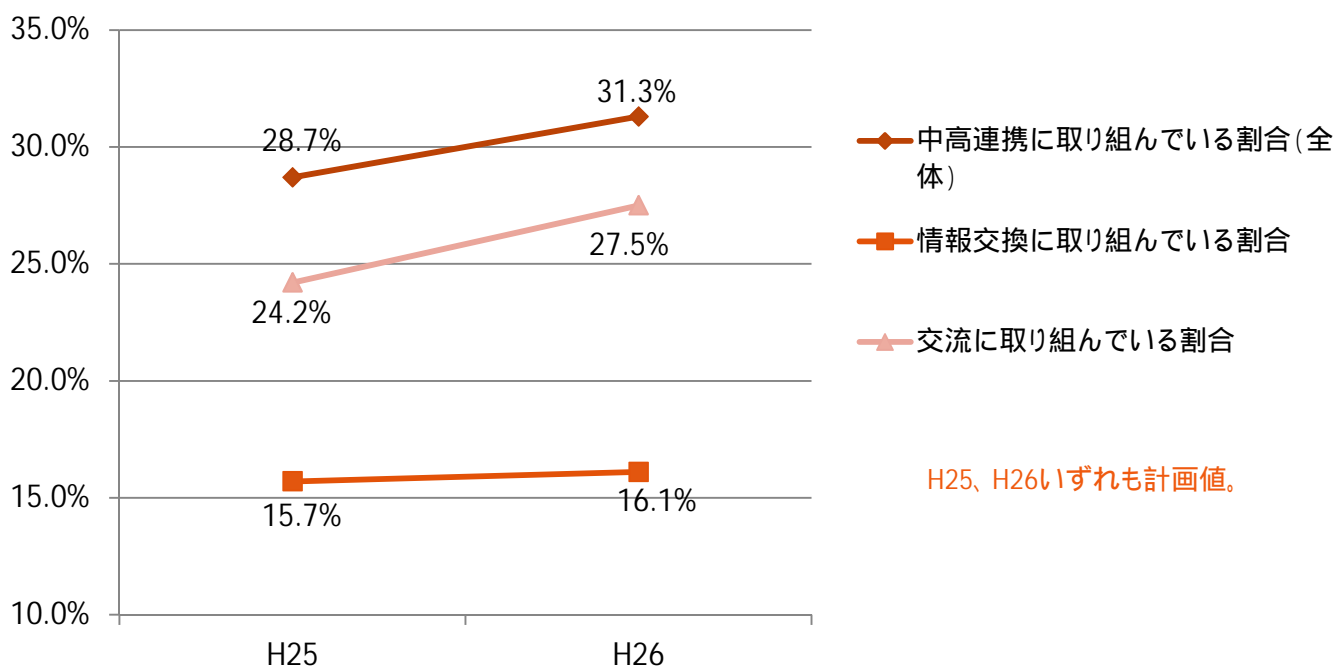
英語担当教員に対する研修の実施状況



中高連携の状況

平成26年度に中高連携に取り組む予定の割合は31.3%で、平成25年度の28.7%から、2.6ポイント上昇している。

中高連携の状況



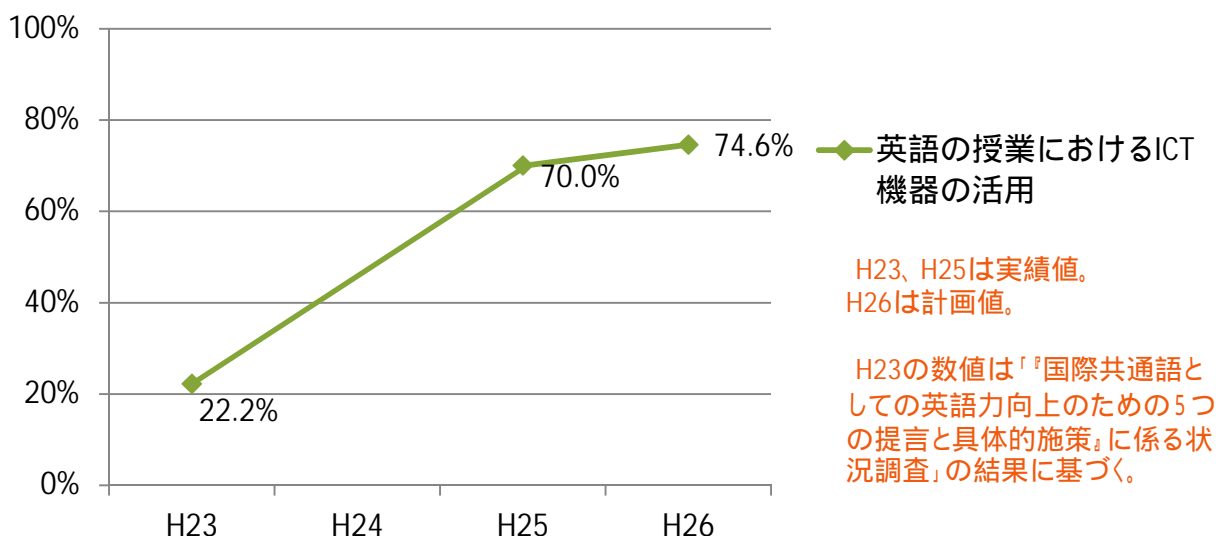
英語の授業におけるICT機器の活用状況

英語の授業におけるICT機器の活用状況

英語の授業におけるICT機器の活用については、平成23年度は22.2%、平成25年度は70.0%と、3年間で47.8ポイント上昇している。

平成25年度にICT機器を活用した学校のうち、86.3%が「パソコン」、28.6%が「指導者用タブレット」を活用した。

英語の授業におけるICT機器の活用



英語の授業において活用したICT機器の内訳 平成25年度

